（様式１）

令和５年度　学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立東戸山小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	児童が共に学び合うこと大切にして、既習内容を活用し、自分なりの答えにたどり着く主体的・対話的な学習過程を大切にしていく。また、児童一人一人の実態や課題に即して、多様な学習形態を計画的に取り入れ、確かな学力を向上させる。	中間評価	ＩＣＴ機器の活用とともに、学び合う学習や日本語習得のための取り出し授業などに取り組んだ。授業の終わりに振り返りをすることで、指導につながる評価に生かすことができた。	最終評価	校内研究において、学習過程に沿ったＩＣＴ機器の効果的な活用方法について検討したり、互いに授業を見合ったり意見を交換したり、改善案を掲示したりして、児童の実態に合わせた指導につなげることができた。その結果、児童の確かな学力につながった。
環境作り		ＩＣＴ機器の活用の仕方を検討したり、誰にも分かりやすく落ち着いて学習に取り組めて学んだことを共有できる環境にしたり、児童が主体的に学習に参加できる環境作りを行う。		友達と学び合うことを大切にするとともに、ＩＣＴ機器を積極的に活用できるように研究を重ねた。「ＩＣＴ機器の活用は手段であること」を意識し、効果的に活用できる場面を見極めて、授業計画の中に組み込むようにしている。		タブレット端末を活用することにより、児童が自分のペースで予習や復習に取り組むことができた。今後は、児童の学び合いに焦点を当て、主体的・対話的で深い学びへとつながる授業改善を実施し、確かな学力を定着させていく。

■　学年の取組内容

学年	学習状況の分析 （各種調査から）	学校が取り組む目標 （日常の授業の様子から）	目標達成のための取組	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1		・　文字を書く力を身に付けるため、全員が楽しく書けるよう指導を充実させる。 ・　ペア学習を通して、話し合いのよさを味わい、話し合いに積極的に取り組めるようにする。 ・　算数における数の認知力を高める。 ・　鉛筆の持ち方や学習中の姿勢などの基本的な学習方法が定着する。 ・　タブレット端末の基本操作ができるようになる。	・　文字の学習時間・機会の確保 ・　話し合い活動の工夫とペア学習の充実 ・　具体物や半具体物の活用 ・　デジタルドリルの活用 ・　姿勢保持などの基本的な学習の指導の充実 ・　タブレット端末の基本的な操作方法や管理方法を習得	・ひらがな・カタカナ・漢字など、新出の内容の指導を丁寧に取り組む。また、ドリルやプリントを活用して習熟の機会を多く設定する。 ・考えたことを友達と話し合ったり、早く課題を終わらせた児童をミニ先生にしたりして、学び合いを設定する。 ・計算の際に、具体物操作や図などで処理する機会を意図的に設けることで、計算の仕方の理解を深め、暗算で計算ができるようにする。 ・タブレット端末のデジタルドリルを授業や家庭学習で計画的に活用する。 ・国語の学習を中心に、書く時の姿勢や鉛筆の持ち方を提示したり、繰り返し声をかけたりすることで確実な定着を図る。 ・ICT機器を活用した視覚的な提示を行い、理解を深める。	学 宿題やテスト後の時間等にデジタルドリルを活用し、繰り返し漢字練習に取り組み、 週に１回程度、カタカナ・漢字のテストを行うことで７割の児童が８割正答することができた。日常生活の中でも習った漢字を活用するよう意識させ、より確実な定着を図る。 学 国語の学習を軸とし、その他の教科の中でも自分の考えや感想を書く活動を頻繁に取り入れることで、自分が考えたことを正しく文章で表現できるようになってきた。また、デジタルドリルを活用し、拗音・促音・助詞の使い方を繰り返し練習したことにより、正しい文章を書くことができる児童が３割増えた。 学 ９割の児童が正確に計算することができるようになった。一方で、指を使ったり具体物を用いて計算をする児童や計算に時間がかかったりする児童もいるため、授業や宿題の中で毎日計算問題に取り組む時間を確保し、より正確に速く計算できるようにしていく。 学 帰りの会や国語の学習を活用したスピーチ活動を行うことで、相手に伝わるように話したり文章を書いたりすることへの意識が高まった。より分かりやすく、正確に話したり、文章を書いたりできるように継続して取り組む。 学 漢字練習の時間や書写の時間等、書字を伴う活動の際には良い姿勢や正しい鉛筆の持ち方の見本を提示することで８割の児童が正しい姿勢や鉛筆の持ち方を身に付けることができた。より確実な定着を図るために、引き続き声掛けや視覚支援を行う。 学 約 70%の児童が、自分の考えをノートに書いたり、図を使って解き方を示したりすることができた。苦手な児童には、ＩＣＴ機器を活用したヒントを示したり、例を示したりする支援を通して、児童が自分の力で考えを書くことができるようにしていく。
2		・　話の内容を理解できるように、説明を短くする、順番を示して説明するなど工夫する。 ・　グループでの話し合いや、発表の場を設定するなど、人前で話す機会を多くする。 ・　自分の力で話を聞き、理解し、行動に移せることが目標である。 ・　文字を書く力を身に付けるために、適切に書き取れないため、少しずつでもノートを活用して書く活動を取り入れる。 ・　漢字を習得するための指導を充実させる。 ・　計算は比較的、戸惑いは少ないが、苦手意識が強い児童もいるため、ゆっくりでも確実に計算の手順を覚えられるようにする。 ・　話を正確に聞きとる力の身に付ける必要がある。	・　様々な場面で聞くことの指導の充実 ・　相手の話を的確に理解するための指導の充実 ・　自分の考えを文章化する機会の設定 ・　漢字を書く力、定着率を高めるため、家庭学習、ミニテストの活用 ・　基礎的な計算練習する機会の充実 ・　ノートの取り方の指導場面の充実 ・　定規などの道具の活用場面の設定 ・　デジタルドリルの活用	・話を聞くポイントを掲示し、話を聞く準備ができたことを確認してから始めるようにしている。 ・集中して課題に取り組める時間が増えた。活動内容をホワイトボードに示し、見通しをもって集中して取り組めるようにする。 ・漢字スキルを丁寧に書く習慣が身に付いている児童が増えた。書き順にも注意できるよう、タブレット端末のデジタルドリルも合わせて活用していく。 ・３桁までの足し算、引き算については理解している。タブレット端末による家庭学習を活用して繰り返し復習させることで、定着を図っていく。 ・式は立てられるが、説明をすることに難しさを感じている児童が見られる。図や式の説明をする機会を多く設け、話型を示したり、個別の声かけをしたりする等、考えを言語化する支援をしていく。	学 漢字においては、タブレット端末のデジタルドリルを活用して繰り返し練習した。また、ペアでの読み合い・考えの伝え合いをする活動を多く取り入れたことで、自分の考えを友達に伝える、友達の話を聞いて質問するといった力が身に付いた。 調 新宿区学力定着度調査の問題の正答率について、ほとんどの項目で正答率が平均を下回る結果となった。算数では、レディネステストの結果を分析し少人数指導よる個別指導を重視して行った結果、一部の児童の学力は向上したが、全体的には個別の支援がより必要とする結果となった。今後も児童一人ひとりの学習習慣を身に付けさせるための支援を行うとともに、家庭との連携を強化し、学力の向上を図る。 学 考えを言語化し、図や式の説明をする活動を繰り返し行うことで、問題場面を読んで把握し、立式できる児童が2割増加した。家庭学習で、スキルやデジタルドリルを活用し、繰り返し復習させたことで、基礎的な計算力が定着したと考えられる。

3	・文学的文章を読み取る力が身に付いている。 ・漢字の字形を捉え、正確に書くことができる。 ・考えを伝えたり、友達の考えに対して質問したりする力が身に付いている。 ・ちょうどの時間を基にして時刻や時間を計算することができる。 ・「数」「式による表現」について理解している。 ・長さの読み取る力や水の体積の単位を換算する力を身に付ける必要がある。	・　話を聞いて、理解することができない児童が多くいる。児童同士の充実した学び合いができるようにする。 ・　漢字の習得に個人差がある。既習漢字の読み書きを定着させる。 ・　立式する際、図・言葉・式を用いて、説明することができる児童が多い。課題の発見と解決に向けて、学んでいけるようにする。 ・　基本的な知識、技能の定着においては、個人差がかなり見られる。知識・技能の定着を図る。	・　相手に考えや意見を伝える話型の活用 ・　話を聞くことを落ち着いて聞くことの定着 ・　児童同士で考えを交流する時間の設定 ・　児童に解決の見通をもたせる課題提示の工夫 ・　学習の振り返りの場面の位置付け ・　デジタルドリルの活用	・ＩＣＴ機器を活用したり話の聞き方を丁寧に指導したりすることにより、人の話を最後まで聴くことができるようになってきた。また、友達が発表したことを他の友達に発表する活動を取り入れたことで、聴くことに集中する力が身に付いてきた。 ・自信をもって発表できるように、机間指導の際に発表する価値があることを伝え、発表を促した。また、友達同士での意見交換を通して自信をもって発表する児童が増えた。今後も意見交流の機会を意図的に設定し、自信をもって発表できるようにしていく。 ・国語では学習したことを模造紙に掲示したり、ペアやグループ、全体で想像したことを共有したりして、叙述を基に登場人物の気持ちの変化を捉えることができるようになってきた。気持ちの変化をよく捉えることができた児童を紹介し、捉え方を共有することで叙述を基に登場人物の気持ちを捉える力を高めていく。 ・既習事項を確認することにより、系統的な学習につなげることができた。また、学習の目標に対しての振り返りを繰り返し指導することにより、振り返りの質を高めていく。 ・文章問題のポイントを端的に捉える指導を継続して行っている。プリントやデジタルドリルを活用して、繰り返し文章問題に取り組むことにより、文章読解力を高めていく。 ・かけ算をわり算に生かせるように、タブレット端末のデジタルドリルでの復習を宿題として設定し、定着を図った。学習が定着し、効果が見られたため、継続していく。	学　日頃から話し合いを行っており、話すことや聞くことが少しずつ身に付いてきた。漢字練習は宿題を中心に行い、文字の習得が進んだ。また、タブレット端末のデジタルドリルでも漢字練習や文章の読み取りを行っている。説明文の単元では、図書室にある本を活用し、主体的に学習できるようになった。 調　新宿区学力定着度調査の「測定」や「加法・減法」、「乗法」、「平面図形」、「長さ」、「時刻と時間」を除いては、全国の平均値を下回った結果となった。計算問題を個別指導などで取り組んだため、平均値を上回ったものもあった。ただし、十分に理解している児童と理解が不十分な児童の差が全ての項目で大きな差がある。理解が不十分な児童への支援を改善していく必要がある。また、「除法」や「立体図形」に関しては、全体的に苦手な児童が多く、学習したことを定着させるため、練習問題や個別の指導などを工夫していく必要がある。 学　タブレット端末のデジタルドリルやプリントなどを繰り返し学習することによって、一定の効果が得られた。今後は、学力調査の結果を生かして自分が苦手とする分野を把握し、自ら課題解決に取り組めるようにしていく。また、宿題などによる学習習慣の定着を図り、家庭と連携して学力の底上げを行っていく。
4	・「話すこと・聞くこと」と「情報の扱い方」の領域の力は身に付いている。 ・説明文や文学的な文章の読みや書く力を身に付ける必要がある。 ・「話すこと・聞くこと」の領域が身に付いてきている。 ・漢字練習は宿題を中心に行い、文字の習得が進んだ。 ・説明文の単元では、図書室にある本を活用し、主体的に学習できるようになった。 ・算数では、「測定」や「加法・減法」、「乗法」、「平面図形」、「長さ」、「時刻と時間」の領域の力は身に付いている。 ・「除法」や「立体図形」の領域の力を向上させる必要がある。 ・全ての児童が理解できるよう、児童一人ひとりの力を向上させる必要がある。 ・タブレット端末のデジタルドリルやプリントなどを繰り返し学習することによって、一定の効果が得られた。 ・今後は、自分が苦手とする分野を把握し、自ら課題解決に取り組めるようにしてい必要がある。	・　落ち着いて聞くことの定着を目指す。学習の規律を確認することから、話を聞くことの習慣付けを通して活動内容や課題に対しての理解へつなげる。 ・　ノートを自分で書くことを増やし、自分の考えを文でまとめることを通し、考えをまとめる力をつける。他の教科においても自分の考えを書く機会を設ける。 ・　1問1答など問いを細分化し、本題の問いへつなげられるように工夫する。 ・　辞書を使った意味調べを取り入れ、文章の理解へつなげる。 ・　漢字学習は、タブレット端末のデジタルドリルやミニテスト、練習を多く取り入れる。 ・　能力差が大きく、個別指導を要する児童が多数いるため、学習形態や指導方法を工夫していく必要がある。また、学習意欲を失わないよう、課題提示を工夫したり、デジタルドリルを活用して適宜に問題を解いたりする。 ・　友達同士で考えを交流する時間を明確にすることで、見通しをもった学習の展開を促す。 ・　ノート指導を丁寧に行い、誤答につながることがないようにする。 ・　タブレット端末にあるデジタルドリルを活用して、多様な問題を楽しく解こうとする学習意欲を高めていく。	・　聞くことの指導の充実 ・　ノートに自分の考えを書く場面の設定 ・　辞書を使って意味を調べる活動の設定 ・　作文の書き方の基礎・基本の指導の工夫 ・　説明文の指導の充実 ・　要約文を書く場面の設定 ・　話し合いや意見を交換する活動の設定 ・　音読をする場面の充実 ・　自分の考えを表現できるよう書く活動の充実 ・　算数的活動の工夫 ・　学習の振り返りの活動の設定と充実 ・　理解が深まるノート指導の充実 ・　デジタルドリルの活用 ・　問題を数直線や図等に表す場面の設定 ・　朝学習や放課後学習、補習の時間等を使って、基礎・基本の定着	・環境の変化や初めて取り組むことに対して、すぐに気持ちを切り替えて話が聞けるよう指導し、話をする前の声掛けにバリエーションもつことで多くの児童が取り組めるようになってきた。しかし、気持ちの切り替えができていない児童が一定層いるため、継続して指導していく。 ・話し合いや意見を交換する活動の設定することにより、発言の際に挙手をすることはよくできてきているが、より多くの児童が発言できるよう発問の細分化を行っていく。 ・自分の考えを表現できるよう書く活動の充実を図った結果、板書をノートに写したり友達の考えを書いたりすることは、できるようになってきた。自分の考えを書くことはもう少し内容が深まるよう、書くポイントを示していく。 ・タブレット端末を調べ学習や作品作りなどで活用した結果、児童の学習意欲を高めることにつながった。継続していく。 ・１時間の学習の中で、児童が自ら作った問題をホワイトボードで発表したり順番に答えたりすることで、発言できる場面を多く設定した。今後も継続していく。 ・教科書やドリルを中心に、プリントやデジタルドリルも活用して多くの練習問題に取り組んだ結果、基礎・基本的な学力が身に付いてきた。今後も継続して指導し、単元ごとの定着を図っていく。	調　国語では、新宿区学力定着度調査の多くの項目で目標値を下回っている。記述式や応用問題についての正答率がより低い。書くことを意識したスモールステップでの学習を積み重ねてきたが、十分達成できなかった。語彙の習得や活用の基礎・基本を見直し定着させていくことで、応用や記述に取り組める学力をつけていく。 学　漢字の読み書きのテストは習慣がつき、より良い点数を取ろうと努力する児童の姿が増えた。また、説明文から読み取ったことに感想をもつことができるようになった。物語文では、登場人物の気持ちを読み取ることが苦手な児童も多く、心情によりそうような発問の工夫が必要と考える。また、正しい語彙を増やしていき、自ら理解することにつなげたい。 調　算数では、新宿区学力定着度調査の多くの項目で平均値を下回った。特に数と計算や図形の領域が低い。また、全ての領域において十分に理解している児童と理解が不十分な児童との差が大きい。学力を向上させるための練習問題や個別の指導など多く取り組んできたが、全体の学力を上げることにつながっていない。ただし基礎問題と応用問題の正答率を比べると、基礎問題の正答率が概ね高かったため、基礎学力の習得には一定程度の成果は見られた。 学　児童一人ひとりの学習意欲については向上した。自分の苦手な分野を意識して取り組めるようになった。引き続き基礎・基本の定着を目指した指導が必要である。単元時の学習だけにとどまらず、年間を通した継続的な学習が必要である。単元のワークシートでは比較的良い点数の結果も見られるので、長期的記憶や理解が定着するようにタブレット端末の問題を活用し、確かな学力の定着を図っていく。

5	・「書く」ことの領域で記述式や応用問題についての力を向上させる必要がある。 ・語彙の習得や活用の基礎・基本を見直し定着させていく必要がある。 ・説明文から読み取ったことに感想をもつことができるようになった。 ・物語文の、登場人物の気持ちを読み取る力を向上させる必要がある。 ・正しい語彙を増やす必要がある。 ・数と計算や図形の領域の理解を深める必要がある。 ・全ての児童が理解できるよう、児童一人ひとりの力を向上させる必要がある。 ・児童一人ひとりの学習意欲については向上した。 ・自分の苦手な分野を意識して取り組めるようになった。 ・長期的記憶や理解が定着するようにタブレット端末の問題を活用し、確かな学力の定着を図っていく必要がある。	・ 学習の規律を確認し、話を聞くことの習慣付けを通して活動内容や課題に対しての理解へつなげる。 ・ 漢字スキル、ノート練習、デジタルドリル、小テストなどのスモールステップで、新出漢字の定着を図る。 ・ 語彙を増やし、自分の考えを文章で表現できることを目指す。 ・ 基本的な計算技能を身に付けることを目指す。 ・ 理解度、定着度の差が大きいので、底上げを図る必要がある。 ・ 短時間でも継続的に取り組み、学習意欲の向上を図る。	・ 話を聞くことの指導の充実 ・ 登場人物の心情によりそうような発問の工夫の充実 ・ デジタルドリルの活用 ・ 図書室での学習や朝の時間など、読書の機会の設定 ・ 辞書を用いて語句を調べる活動の充実 ・ オクリンクを活用した文章を書く活動の充実 ・ 授業の初めに、100 マス計算や簡単な四則演算の問題を短時間で集中して解く場面の設定 ・ 個に応じた指導の工夫の充実	・話を聞く大切さを伝えるとともに、時には掲示物やＩＣＴ機器を活用して、児童が話を聞きたいと思う状況を作り出すようにしている。 ・発問を精選し、登場人物の心情を個人で考えたり、グループで話したり、それを全体に共有したりして、学習を深めるようにしている。 ・基礎・基本の定着を図るために、ＩＣＴ機器の効果的な活用、指導事項のスモールステップ化等、より丁寧な指導を講じる。 ・問題文の情報を比較したり関連付けたりして読み取る力や、限られた情報から問題の答えを推論して解決する力を身に付けられるようにするために、読み方の丁寧な指導や個別の支援を行っていく。 ・課題解決に向けて、考えを巡らせて解法を探り、粘り強く解決しようとする姿勢が身に付いてきた。オクリンクで文章を書き、考えを共有している。 ・算数の授業の初めに、既習事項を集中して解く場面の設定することができているので、継続していく。 ・単元の終末に、学習のまとめ、復習の時間を設定し、学習内容の定着を図る。	調 新宿区学力定着度調査の今年度の正答率においては、概ね全国平均を下回っている。全体的に15～20%ほど下回り、習熟度別指導及び個別指導の充実を図る必要がある。学習内容の定着に向けたタブレット端末を活用したドリル学習を計画的・継続的に実施できたが、基本的な学習習慣の定着ができていない場面があり、改善の余地がある。継続して支援を行っていく必要がある。 学 日々の学習においては、個別指導の充実及びペアやグループによる学び合いの場を多く設定したことも効果的であった。互いに学び合う姿勢が、算数で見られた。また、良好な友人関係を築こうとする児童が多くなっており、学び合いの素地ができているため、継続して指導していく。 学 図書室の学習を生かして、学びを深めた。読みたい本を紹介し合う活動など、児童が主体的に活動に取り組める学びを設定した。読書の時間に効果的に学びが進んだ。
6	・文学的な文章を読み取る力が身に付いている。 ・言語文化について理解している。 ・説明的な文章を読み取る力を身に付ける必要がある。 ・漢字の読み方や書き方を身に付ける必要がある。 ・数量関係を捉える力が身に付いている。 ・平面図形や立体図形について理解している。 ・整数の計算の意味や計算の仕方を身に付ける必要がある。 ・面積や体積を求める方法を理解する必要がある。	・ 正しく漢字を書いたり、既習の漢字を適切に使って文章を書いたりできるようにする。 ・ 順序立てて話したり、要点をおさえて聞いたりすることができるようにする。 ・ 語彙の習得数を多くして、活用できるようにする。 ・ 文章構造について理解し、適切に文章に書き、表現できるよう、5W1H を意識した書き方を指導する。また、論理的な思考を、文章で表現できるようにする。 ・ 学習内容の定着度の個人差が大きいため、底上げを図る必要がある。 ・ 題意を正確に読み取る力を身に付けさせる。 ・ 時間、長さ、かさ、重さ等の量感をイメージして考える力を身に付けさせる。 ・ 課題解決の方法を考え、文章や図で表現できるようにする。	・ デジタルドリルの活用 ・ 話型の指導や、話の聴き方を指導の充実 ・ 国語辞典を活用する機会の充実 ・ 文章を書く機会の充実 ・ レディネステストを活用した児童の実態を把握する機会の設定 ・ 個に応じた問題を設定することによる基礎・基本の定着 ・ 学習の定着度を把握する機会の設定 ・ 問題場面を具体的に捉えさせ、学習したことを応用する場面の設定 ・ 具体的な物を操作により具体的なイメージをもって考える場面の設定 ・ 数直線や図等に表し、解決させる指導を繰り返し行う場面の設定	・宿題を定期的にデジタルドリルにて配信し、取り組むようにしている。 ・順序立てて話す力を身に付けさせるために、「話すこと」の単元において話型を用いた指導を行っている。また、話型に関する教室掲示も行った。話し方に困った児童は、話型を使うことによって話すことができるようになり、話す力を着実に身に付けている。 ・語彙の習得数を増やすために、国語辞典の活用に加え、教室に教科書に記載されている「言葉の宝箱」を拡大したものを掲示している。覚えた言葉を学習に限らず、生活の中で使用している児童も増えてきた。 ・レディネステストを活用し、実態の把握と個別の指導の機会を設定している。 ・自分の考えを書いたり、振り返りを書いたりする機会を意図的に設け、その中で文章構造の指導をしている。特に、５Ｗ１Ｈが欠けている児童には声を掛け、意識して書くよう指導している。書くことを苦手とする児童は書き出しに困っていることが多いため、書き出しの例文を示すことで、すらすらと書けるようになった。 ・考えを書くときには、結論を示してからその理由や根拠を述べるよう指導している。 ・算数の題意を正確に読み取る力については、身に付いていない児童が多い。生活に置き換えた際に、実現しないはずの数値を答えとして導き出してしまうことがある。問題の場面を想像することができないことが課題である。 ・具体物を用いた活動を取り入れたことにより、量感をイメージして考える力が身に付いた。特に「比」の単元では、生活で使用する調味料等の割合を問題に取り入れ、具体的なイメージをもたせた。 ・問題を数直線や図に表す活動を意図的に設定し、それらを用いて自分の考えをまとめさせている。	調 国語では、新宿区学力定着度調査の問題の正答率については、全ての項目において区平均を18%下回っている。特に「書くこと」の領域では、区平均を大きく下回っている。ただし、学力層の推移を見ると、下位層の児童の割合が少なくなり、学年全体としては基礎的な学力の向上が見られた。 学 物語文においては、どの単元においても、「音読」「設定の確認」「登場人物の確認」「要約」「登場人物の変化」「変化のきっかけ」「物語を一文でまとめる」活動を取り入れることで、場面の様子や心情の変化を叙述に即して読む力が身に付いてきた。説明文においては、文章構成を適切に指導し、段落ごとの内容の読み取りを丁寧に行ったことで、要旨を捉えられる児童が増えた。「書くこと」においては、自分の考えを書いたり、学習の振り返りを書いたりする機会を設けたことで、5W1H を意識した書き方が身に付いた。 調 算数では、新宿区学力定着度調査の問題の正答率については、全ての項目において全国平均を下回っている。前年度からの経年変化をみると、学力上位層の割合が3%低くなった。領域別に見ると「データの活用」の正答率が区の平均を11%下回っている。習熟度別指導の体制が取れなかったことも要因として考えられる。 学 毎回の学習において指導者用デジタル教科書等を活用し、視覚による支援を行うことで、問題場面をより具体的に捉えさせることができた。さらに、宿題などタブレット端末のデジタルドリルを用いて、既習事項の定着を図るための取り組みを行ったことで基礎・基本が身に付いた。

特支		・ 学習の基礎・基本の定着に個人差がある。さらに、生活場面の中で、学んだことを応用することが苦手な児童がいるため、学習で学んだことを活用していく力を身に付けさせる。 ・ コミュニケーションに支援が必要な児童がいるため、話したり、聞いたりする力を身に付け、コミュニケーションをスムーズに取れるようにする。	・ 国語や算数などで学んだことを、生活場面を想定した学習活動に生かし、実践的に学ぶ機会を設定 ・ タブレット端末やICT機器の活用 ・ 学級内たてわり班活動、異学年交流など、意図的に関わる機会の充実	・タブレット端末を活用した文字入力や、学びポケットの使い方を知り、自主的に使用できるようにするために、計画的な活用の仕方をしていく。また、使い方の手順を分かりやすいように、手順表をいつも見れるようにしたり、ローマ字表を配布したりしていく。 ・高学年は、宿泊行事や調理学習と合わせ、お金の計算の仕方や、話し合い活動を計画に行う。また、自分が買ったものや計算を振り返れるようタブレット端末を活用し記録やまとめをしていく。低学年は、具体物を活用したり、視覚的教材を多く用いたりして、計算や言葉など基礎定着を図った学習を繰り返し行っていく。 ・縦割り班活動では、進んでコミュニケーションが図れるよう様々な活動の中で意図的に行い、他学年と関わりをもつ機会を計画的に作る。また今後も多様な方法で関わる機会をつくる。	・タブレット端末のローマ字入力や平仮名入力をする機会を増やし、自分で調べたことや話したいことをタブレット端末の発表ノートやワード、パワーポイントを活用して発表する学習を行った。書字が苦手な児童には、タブレット端末を活用し、文字に接することで気持ちが前向きになって取り組むことができた。また、タブレット端末を得意とする児童は、自分で内容を考え、相手に伝わりやすいように工夫して話せるように意識できた。 ・生活場面で活用できるような学習を行ったことで、初めて触れるものや、初めての経験が多くでき、自分から生活場面と比べて考えることができるようになってきた。また、児童の自信につながった。低学年も、学習の定着を図ったことによりお楽しみ会でお金を使った学習を取り入れ、他教科と関連した授業が行えた。 ・異学年と関わる機会を意図的に行ったことで、縦割り班活動以外の休み時間も互いに進んで関わる児童が増えた。行事や学級活動などと関連させていき、今後も計画的な交流を推進していく。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況